

刊行にあたって

博物館といえば、日本では、すぐれた収蔵品のあるところという観念がまず出てくるが、その収蔵品を対象として、それぞれの専門分野に応じた研究活動を行っている場所でもあることは忘れられがちである。現に活発に研究活動を行っている館員なればこそ、その分野におけるすぐれた生涯学習の支援に貢献できるのであり、単に知識が深いだけでは、知的欲求に促されて学習意欲を持つ多くの人たちの好奇心を十分に満足させるだけの生涯学習支援の役割を果たすことはできない。その意味では、博物館はすぐれたもの（収蔵品）とそれを生かすことのできる人（研究員）のいる場所である。

研究者は、研究をやめるとただの人になってしまう。生涯学習支援を理想的に進めたいと念ずる人と自然の博物館では、館員の資質を常に最高に保っている必要があると理解している。そのため、館員が相互に切磋琢磨して共同で研究に励み、専門に分化すると同時に他分野も包括した総合的な視点で研究の推進を図ることができるよう、部門研究と平行して、総合共同研究を設定している。2002年以後は博物館と位置的に深い関係のある武庫川を対象に、多くの館員を糾合した総合共同研究を設定した。

武庫川を対象とした総合共同研究は、人と自然の博物館が新展開を始めた時期に立ち上げられたため、総合化について多少の遅れはとったものの、各研究班の研究にはそれぞれ相当の成果をあげることができた。本冊子は、各研究班からあわせて8件の報告を提出してもらい、取りまとめたものであるが、それぞれの研究班が精力的に調査研究を行って来た経過が読み取れるように編集されている。

これまでの経験を踏まえて、総合共同研究のあり方も見直すべき時と判断しているが、新しい型を創造するためには、これまでにどのような努力が積み重ねられ、どのような成果があげられ、あげられなかったかを詳細に検討する土台固めが必要である。この冊子を通じて、過去の総合共同研究が明らかにして来たものを具体的な資料から瞥見し、その成果にも関わらず、研究の総合化に今一歩及ばなかったのはなぜか、真摯に見極めていき、新しい視点で研究に対応することを可能にしたいものである。この冊子に盛られた成果について、率直なご批判がいただければ幸いである。

兵庫県立人と自然の博物館 館長

岩 槻 邦 男